

東博史大使からのメッセージ（大使館便り171号より）

ジャカランダも満開の時を過ぎ、初夏を思わせる6月になりました。皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

今回は、「ポルトのソアレス・ドス・レイス国立博物館の南蛮屏風下張り文書の修復事業」、「イベロアニメ(IBERANIME)イン・リスボン2017」及び「丸紅・ポルトガル社オープニングセレモニー」について、御紹介致します。

1. ソアレス・ドス・レイス国立博物館の南蛮屏風下張り文書修復事業の開始

5月3日、ソアレス・ドス・レイス国立博物館の南蛮屏風下張り文書の修復事業開始式に出席しました。南蛮屏風下張り文書の修復事業は、2014年5月の安倍総理ポルトガル訪問の際に、同総理がエボラ図書館で、エボラ南蛮屏風下張り文書を御覧になったことから再活性化し、谷垣禎一・日・ポルトガル友好議連会長のもとで、伊藤玄二郎星槎大学教授が実施されているものです。2015年3月のコエーリョ首相(当時)訪日の際の「共同コミュニケ」の進捗に関する「ファクトシート」にも「ポルト、リスボン、エボラにおける南蛮屏風下張り文書の修復事業への協力」が明記されました。2015年5月の谷垣日・ポルトガル友好議連会長のポルトガル訪問の際にも、同会長からリスボン国立図書館、エボラ図書館にエボラ南蛮屏風下張り文書のレプリカが贈呈されたこと、同会長がポルトのソアレス・ドス・レイス博物館を訪問し、その南蛮屏風下張り文書を見られたことは、これまでも、この「東大使メッセージ」でも御紹介してきたとおりです。

他方、その後、修復のための資金手当に時間を要した他、2015年11月にポルトガル側で新政権が誕生し、文化財の日本への持ち出しについて再度許可を得る必要が生じていたのですが、このたび新政権から持ち出し許可が得られ、ソアレス・ドス・レイス博物館の南蛮屏風下張り文書を日本に移送し、京都国立博物館内の工房において修復作業を実施することとなりました。同文書については、可能であれば、8月末までに修復作業に目途をつけ、8月30日ー9月2日までリスボンで開催予定の「第15回 EAJIS 日本研究国際会議」に世界中から900名もの日本研究学者がリスボンに集結する機会に、その文書の一部なりとも日本研究学者の皆様にもお見せすることを目標とされています。

なお、同南蛮屏風は、17世紀初頭に描かれた多色彩色の絵で、作者は不明ですが、南蛮人の到着の模様を描くなど、狩野派の構図との類似性を見て取ることができます。2000年に国際交流基金、東京文化財研究所、ポルトガル博物館院の間で、同屏風の修復に関する協定が結ばれ、2000年ー2002年にかけて表装部分の修復が日本で行われ、九州国立博物館の開館の際に修復された南蛮屏風が展示された後に、ソアレス・ドス・レイス博物館に返還され、現在、同博物館に展示されています。今回、修復するのは、表装部分修復の際に屏風内部から取り出された下張り文書です。5月3日、修復事業開始式典の際には、修復前の下張り文書の一部が展示されていました。私も全てを解読することはできませんでしたが、江戸時代初頭の京都の和菓子屋の顧客台帳等の関連文書や奈良の唐招提寺の建物や仏像、菩薩像のリストのようなものが見てとれました。また、「鑑真」の名前も読み取れ、もし、これらの文書が唐招提寺に残っていない場合には、貴重な歴史的な資料になりうると感じました。

日本とポルトガルの友好の歴史を象徴する南蛮屏風の下張り文書の存在が、これらの修復を通じより多くの人に広まり、両国間の更なる関係強化に繋がることを期待しております。



「ポルト・ソアレス・ドス・レイス博物館で、南蛮屏風下張り文書について説明する東大使」

2. イベロアニメ IBERANIME イン・リスボン 2017

リスボン市の多目的国際コンベンションセンター・MEO Arena ホールで5月7日「イベロアニメ2017」が開催されました。「イベロアニメ」は、コスプレ、アニメ、マンガ等日本のポップカルチャーの民間主導の大規模イベントですが、5月6日、私も主催者の招きで視察致しました。今回4度目の開催となりましたが、主催者によれば初年度の2014年は、約6,000人、2015年は、約12,000人、2016年には約31,000人と、毎年参加者が倍増する勢いとのことですが、本年2017年は35,000人の来場者があった由です。私もこの4回の「イベロアニメ」を視察したのですが、日本のアニメ、コスプレ等を楽しむポルトガル人の若者の姿やその熱気に感銘を受けました。このイベントは、民間の事業ではありますが、大使館としても日本文化紹介事業の支援を行っています。大使館ブースを設け、けん玉等の日本の伝統玩具の紹介や書道のデモンストレーション、浴衣の着付け等を行いました。大使館ブースは大変な人気で特に浴衣の着付けには、多くの人が列をなしていました。また、長時間にわたってけん玉に興じる少女の熱心さにも感銘を受けました。ポルトガル人の日本のポップカルチャーに対する熱狂的な関心を日本文化に対する深い理解や「ゲーム」をはじめ日本製品の販売促進にもつながる良い企画であり、大使館として今後も支援することが望ましいと感じました。また、JET・国費留学生OB会イニシアティブによる日本留学・紹介セミナーは100名以上の参加で会場は満席となり、本年は、「ワーキングホリデー」についても紹介いただきました。更に本年は、主催者の求めに応じ、私がMEO Arena ホールのメインステージでポルトガル語でスピーチした際、冒頭、「こんばんは」と日本語で呼びかけたところ、会場も一斉に「こんばんは」と応え、この模様が5月7日付け当地主要紙「ディアリオ・デ・ノティシアス」の記事で紹介されました。



「イベロアニメ・メインステージで挨拶する東大使」

3. 丸紅リスボン事務所開所式への出席

5月30日、私は、リスボン市、リッツホテルで開催された丸紅リスボン事務所の開所に伴うレセプションに出席し挨拶しました。同開所式には、國分文也丸紅社長、ペドロ・マルケス企画・インフラ大臣、エンリケスAICEP長官も出席し挨拶しました。

丸紅は、2013年10月、仏 Engie 社より、ポルトガルにおける発電資産を保有する

持ち株会社の株式50%を取得、発電事業に参入し、現時点では、火力発電、再生可能エネルギー等当国総発電量の2割弱を占めています。また、2014年には、産業革新機構とともに、AGS社を買収して、水道事業に参入し、現在、ポルトガルの14の自治体で上下水道事業を実施しています。更に、丸紅は、2016年10月には、東邦ガスとともにGALPのガス配送事業会社GGNDの株式22.5%を取得し、ガス配送事業に参入しました。

2013年10月に、私がリスボンに日本大使として着任した際には、丸紅の日本人職員はひとりもおられなかったのですが、その後、2013年11月に発電事業で2名、2014年、水道事業に3名、2016年にガス事業に2名来られ、今般、リスボン事務所開所に伴いさらに2名、水道事業に1名加わり、現時点では、10名もの日本人職員の陣容となっています。今回のリスボン事務所開所に伴い、これまでの発電事業、水事業、ガス配送事業に加えて、今後は、総合商社の本来業務でもあるグローバルな貿易投資の促進を担うこととなります。また、日・ポ二国間の貿易投資の促進のみならず、ポルトガルを「ゲートウェイ」として、EU、ポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)諸国を視野に入れた貿易投資及び経済協力の促進が期待されています。

また今般、國分文也丸紅社長とともに、ソウザ大統領及びコスタ首相を表敬しました。ソウザ大統領は、「丸紅が、2013年、ポルトガルがトロイカ支援の緊縮財政下にあった困難な時代に発電事業への参入を決定したことを特に高く評価している、発電事業、水事業、ガス供給事業以外にもポルトガルには投資機会が多く存在しており、「長期」にわたる投資を期待している、また、投資機会をとらえるためには「迅速」に対応する必要があること、ポルトガル国内に留まらず、EU、CPLP諸国への活動拡大の可能性については丸紅も十分承知しておられると思うが、コロンビア、メキシコ、アルゼンチン等の中南米諸国においてもポルトガル企業と協働して事業拡大する余地が大きい」ことについて言及がありました。

また、コスタ首相との会談では、「丸紅のここ3年間におけるポルトガルへの投資を高く評価している。近年、富士通等日本企業の投資が増加していることにも見られるように、ポルトガルは投資環境が良く、ポルトガルを経由して欧州諸国等への投資の玄関口となることもできる。多様な投資機会があり、今後も多方面での活動の拡大を期待している」との言及がありました。

このように、ポルトガル政府は、ポルトガルが経済的に困難に直面していた時期に、丸紅の新規投資が行われたことを高く評価し、また、今般のリスボン事務所の開設による事業拡大に期待し、全面的に協力する姿勢を示しています。

ここ3年間、ポルトガル経済はプラス成長を示し、内政も比較的安定しており、治安も良いことから海外からの観光客も急激に増加し、海外からの新規投資も増大し、ポルトガルには良い「風」が吹いていることを実感しています。



「丸紅リスボン事務所開設レセプションでの鏡割りの写真」
左が東大使 真ん中が丸紅國分社長 右がマルケス企画・インフラ大臣

以上のとおり、5月にも経済、文化等広範な分野で日・ポ二国間関係強化の動きがありました。特に、丸紅リスボン事務所の開設は、ポルトガルが新規の投資先としてふさわし

い国であることを象徴しており、今後の多くの日本企業の新規投資の先駆けとなり、日・ポルトガル間の貿易投資の促進ひいては二国間関係の強化につながることを確信しております。

6月になり、24日には恒例の「日本祭り」が開催されます。この「日本祭り」をとおして、現在高まりつつある日本への関心、熱い視線を日本文化への深い理解、両国の友好関係の強化につなげていきたいと考えておりますので、引き続き皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。